

平成 30 年度

いすみ市介護サービス事業者連絡協議会 緊急企画「防災研修」(報告書)

日時 平成 30 年 8 月 2 日(木)13 時 30 分から 16 時 30 分

場所 文化とスポーツの森 会議室

内容 「防災研修」

講師 いすみ市危機管理課

危機管理監 太田要氏

参加者 54 名

進行 小室会長

1、開会、オリエンテーション 小室会長

先日は西日本の災害があった。千葉県が想定している地震、津波、洪水、土砂災害で、いすみ市は二番目に多い地域。今回は自衛隊OBの太田さんに講義を依頼しご快諾頂いた。今回は会員外の施設にも案内し多くの参加を得られた。利用者や職員一人ひとりを守るためにしっかりと学びましょう。



2、講義「災害に備えて」 講師 太田要氏

防災格言に「すべての防災は事前対策にある」「安全対策は準備に比例する」。無知であれば危険、ちょっと知っているだけで大変助かると言うこと。

昨年自衛隊退職し、今年からいすみ市勤務。中卒後自衛隊入隊し、姫路勤務に始まり、岩手宮城内陸震災、東日本大震災に派遣。H22、8 仙台から沖縄へ異動。被災者になっていたところだった。

「大規模災害に対する備え」

①防災減災のためには

「自分達の住む町のリスク」を正しく知って正しく備えること。いすみ市には山も海も川もある。津波、土砂災害があるということ。自宅や職場のリスク、地震も津波も予測できないが、土砂災害は予測できる。

地震、津波について。日本は地球全体の0, 25%なのに地震発生割合は20%。これを受け入れて生きるしかない。

過去にいすみ市を襲った地震は、慶長地震。その72年後に延宝地震。その26年後に元禄地震(東日本レベルの大地震、マグニチュード8, 5)。そこから315年間大きな震災無し。

今後いすみ市に影響を及ぼす地震は三つ想定されている。

首都直下地震、震度6弱から6強、液状化、今後30年間に70%確率、マグニチュード7クラス。

南海トラフの巨大地震、マグニチュード8クラス。東海、東南海、南海の三つが連動して巨大化する。大津波。東海地震、戦時中で公表されず。100年~140年周期からするとそろそろか。いすみ市は震度4だが巨大津波の危険性。チリ地震も揺れなかったが津波による被害。津波情報に興味持たなければ。



元禄地震の新モデル。日本は4つのプレート震源地が近く、いすみ市は揺れやすい。液状化もしやすい。太東小学校から大原小学校にかけて。

いすみ市の最悪の想定は震度6強、液状化、津波マックス9, 9m(20分後到達)。液状化、津波、停電、火災のシミュレーションを。

土砂災害について。東日本豪雨、H28熊本地震、H26広島市土石流、H29北九州豪雨。夜は暗く足元が分からないので日中に避難しなければならない。S45年いすみ市の台風、集中豪雨で大多喜町、一宮町で死者も。S46台風25号、いすみ市で死者11名。

土砂災害は①がけ崩れ②土石流③地滑り。市は土砂災害警戒区域を指定。土石流の頻度、年間1000件だったものが温暖化、異常気象の影響か1400~1500件に増えている。自然災害の中では40%を占める被害がある。死者のうち要援護者が60%超。真備町80%が要援護者だった。早めの注意喚起が必要。広島では避難指示で避難した者が一割。人は定期的な注意喚起をしないと忘れてしまうもの。

9年前山口県防府豪雨。ケアホームで7名死者。ハザードマップを理解する必要。「いすみ市土砂災害警戒区域」は306か所。山、河川、傾斜がある。

②リスクに対する備え

土砂災害から身を守るために。「防災気象情報」とその利用が大切。銚子地方気象台、気象庁が発表している情報。段階として「注意報」軽度⇒「警報」

重大な災害の可能性⇒「特別警報」著しく大きな災害が来る。ここでは「直ちに命を守る行動」かなり早い段階での促し。浸水対象と土砂災害対象の二種類から必要な情報を得ること。次の行動を考えるタイミングを計って。

市が「警戒区域」を発すると、そこにいると罰せられる。H28 岩手県岩泉、高齢者グループホームで高齢者が水死したことを受け法改正。いすみ市としては、大雨注意報が夜中に大雨警報になるだろうという時は日中に高齢者等避難開始を発令する。

気象庁ホームページのメッシュ情報、銚子地方気象台ホームページを参考に危険回避すると良い。その場所によってどの情報を重視する必要があるか考えて。いすみ市の情報伝達・災害情報の収集手段としてJアラートは「いすみ市防災メール」に直結しているので登録を。

地震、津波の備え。命を守れる備えとは「備蓄」。その前に「死なないこと」が前提。備えは「家庭防災会議」から。家具転倒防止、ガラス飛散対策で損害回避できる。家の耐震、家具転倒防止(いすみ市補助制度あり)、保険加入の勧め。

水平避難。「津波緊急避難場所」「避難場所」へ一時的な避難。「避難所」は一時的に住むところ。津波避難は20分以内。家にいるとは限らないのであちこち避難場所を押さえて置くこと。海方向、河川をわたる避難は危険。20分間で救助できるかどうか、生き残るための判断が重要。

垂直避難。一階より二階、三階、屋上への避難。これは最終手段。崖からは離れること。

備蓄品「津波読本」参照。水は1人1日30。3日間は人命救助優先、その間は自分でしのぐ。4日目以降は国、隣接地域の援助を受ける。どこに何を置くか、家族や職場で決めておく。介護施設には、私見として発電機があると良いが、高価。レンタルを検討しておくこともよし。トイレトペーパーも大事。

身の安全を守るには危険を知っていること。外ではブロック塀、駅では駅員の指示を聞く、頭を守る、転倒しない。運転中はハザード付けて駐車、重要なものを残さずロックしないでキーを残す。建物内では非常口へ。ガラスのショーケースからは離れる、空港では頭の保護、エレベーターは全部押して止まった階で逃げる。海では高台へ。

11月17日いすみ市避難訓練実施する。

③危機意識

人間は行動に移せない。自分が死ぬとは考えない。「正常化の偏見」都合の悪い情報を



無視したり過小評価したりしてしまう。誰かが言ってくれたら行動できる。釜石の奇跡では中学生の避難行動をみて住民が避難行動とった。「想定を信じるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」の教え。

④事業継続計画(BCP)

いざという時に止めてはならない、早期に復旧するための計画。防災マニュアルは人命を確保するため。BCPは生き延びた命を守り続ける続けるため。作成支援ツール、静岡県ホームページが参考になる。

最後に。東日本大震災。宮城県名取市閑上地区。津波到来が一番遅かった。人口5000人の14%が死亡。防災無線が届かなかった。月一回の避難訓練、常に意識出来ていたかどうかの差で助かるということ。

質疑

Q、BCP計画策定しているが、職員の自主参集について。給料は。応援要請は危機管理課か。

A、市役所は震度5弱で対策本部。施設の安全、職員の安全、利用者の安全、施設の安全、配備体制の基準により手当が発生する。市役所危機管理課が一個人の対応をし切れない場合もある。

3、総評 伊藤副会長

緊急企画としてご多忙の中、長時間の講義をありがとうございました。とても詳しくかなりの量の資料になった。リアルに知らしめてもらった。常日頃平穏な生活を送っているが、東日本大震災、西日本豪雨、千葉県東方沖地震への危機意識など再認識した。災害発生時の適切な判断、対応、生き延びることについての学びが財産になった。いろいろな施設からの参加を受け、各施設で備えて行くことが大事。

4、その他

- ・事務局より。会の概要と入会の案内。
- ・会長より。BCP計画は、高知県の例も参考に。千葉県高齢協の非常災害対策委員長をしており、協会としてのBCP計画を策定しているが、対策が遅れていると感じる。明日から行動する事業所はないと思う。事業所へ戻り、この状況について検討して頂きたい。ある研修会で講師が「人を守るために皆さんが死んではいけない」。被災後のことを真剣に考えましょう。

以上